

令和4年度 活動計画

活動目標

1. 看護師職能の活動を通して、公衆衛生の向上と県民の健康保持・増進に寄与する
2. 病院看護師の役割の明確化と資質の向上を図ると共に働きやすい環境づくりを支援する

<公益目的事業>

活動内容

1. 医療福祉における看護師の資質向上のための研修会等の企画・実施
2. 看護職の交流を通して情報交換し、看護職の活性化を図る

活動計画

1. 定例会：年 12 回
2. 研修会：年 2 回 延定員 300 名
3. 調査研究：実態調査計画実施

<会員支援事業>

活動内容

1. 職能集会・講演会で事業計画を説明し、看護師職能委員会 I の活動を周知する

活動計画

1. 職能集会・講演会：年 1 回 定員 150 名

公益目的事業（研修会）

項 目	内 容	開催日	場 所	募集人数
研 修 会	テーマ：「今だから感情と看護を考えよう」 講師：武井 麻子氏 (Office-Asako 代表・日本赤十字看護大学名誉教授)	R4. 10. 1 (土)	神奈川県 看護協会	150 名
	◆保健師職能・看護師職能Ⅱと合同研修 テーマ： 「それぞれの立場から患者に寄り添う ACP を考える」 講師：西 智弘氏 (川崎市井田病院・かわさき総合ケアセンター・腫瘍内科 緩和ケア内科医長)	R5. 1. 13(金)	同上	150 名

会員支援事業

項 目	内 容	開催日	場 所	募集人数
職能集会	令和3年度事業報告 令和4年度事業計画	R4. 7. 30 (土)	神奈川県 看護協会	150 名
講演会	テーマ：「幸せに働くコツ～幸福学の観点から～」 講 師：前野 隆司氏 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント 研究科教授 ◆zoom と会場にてハイブリッド形式にて実施			

看護師職能委員会 I 研修（講演会）実施報告

研修（講演会）テーマ	幸せに働くコツ ～幸福学の観点から～		
主 催	看護師職能委員会 I		
講 師	前野隆司氏 （慶応義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授）		
開 催 日 時	令和4年7月30日（土）14:00～16:00		
目 的	幸福学に基づく幸せに働くための必要な姿勢や考え方を学ぶ		
内 容	講演		
場 所	神奈川県看護協会第1研修室（神奈川県総合医療会館6階） （Zoom および会場によるハイブリッド方式）		
参 加 対 象	看護職	参 加 人 数	111 名 （会員 106 名・非会員 5 名） 会場：21 名、Web 参加：90 名
まとめ・評価	1. アンケート回収 58 枚 回収率 52.2% 1) 会員：55 名 2) 非会員：3 名 2. 職種 1) 看護師：53 名 2) 准看護師：0 名 3) 保健師：4 名 4) その他：1 名 3. 研修会を知ったきっかけ 1) 看護協会からの案内チラシ：42 名 2) 看護協会のホームページ：12 名 3) 上司からの情報：4 名 4. 参加動機 1) 自ら進んで：55 名 2) 上司の勧め：3 名 5. 感想 1) 非常に良かった：37 名 2) 良かった：19 名 3) 普通：2 名 4) やや期待はずれ：0 名 5) 期待はずれ：0 名 6. アンケート内容 ・心的要因（幸せの4つの因子）が参考になった。バランスを大事にしていきたい。 ・幸せに働くということについて看護職にはこれから更に広がってほしいと思う。 ・講師の先生のお話の仕方が親しみやすく、分かりやすかった。幸福診断をやってみたいと感じた。自分を知ることが人の幸せにつながる事が理解できた。 ・コロナ化であり Web 選択ができて、とても良かった。 7. 評価 幸福学の第一人者から、幸福学に基づく幸せに働くコツや組織の在り方などの講義を受けた。講義の中では、幸福学の基礎で、心的要因（幸せの4つの因子）のバランスが重要であることを学んだ。また、自己の傾向を知る手段として幸福度診断があり、個性を知ることによって職場の幸福感を高めるような関りをしていきたいとの意見があった。これらのことから現場に活かせる研修であったと考える。また、アンケートの結果からも、96.5%以上が良かったと回答しており受講者のニーズに応えられたと評価する。 感染対策予防のためハイブリッド方式を導入し、約8割が Web での参加であった。今後も感染対策を考慮し選択式の講演の開催を継続していきたい。		



看護師職能委員会 I 研修（講演会）実施報告

研修（講演会）テーマ	今だから感情と看護を考えよう		
主 催	看護師職能委員会 I		
講 師	武井 麻子氏（Office-Asako 代表・日本赤十字看護大学名誉教授）		
開 催 日 時	令和 4 年 10 月 1 日（土）14:00～16:00		
目 的	感情労働の第一人者より、コロナ禍での感情と看護を考える機会とする		
内 容	講演		
場 所	神奈川県看護協会会議室（神奈川県総合医療会館 5 階） Zoom 開催		
参 加 対 象	看護職	参 加 人 数	93 名 （会員 85 名・非会員 8 名）
まとめ・評価	1. アンケート回収 63 枚 回収率 76.8% 1) 会員：57 名 2) 非会員：6 名 2. 職種 1) 看護師：59 名 2) 助産師：3 名 3) 保健師：0 名 4) その他：1 名 3. 研修会を知ったきっかけ 1) 看護協会からの案内チラシ：36 名 2) 看護協会のホームページ：13 名 3) 上司からの情報：10 名 4) 友人・知人からの情報：1 名 5) その他：3 名 4. 参加動機 1) 自ら進んで：59 名 2) 上司の勧め：1 名 3) ホームページを見て：3 名 5. 感想 1) 非常に良かった：28 名 2) 良かった：31 名 3) 普通：3 名 4) やや期待はずれ：1 名 5) 期待はずれ：0 名 6. アンケート内容 ・自分の感情を看護師だからとマニュアル通りに押し殺そうとせず、自分の感情はしっかり受け止めて表出し、ストレス消化することが大切と気づきました ・雑談というコミュニケーションが関係性を構築していくことを改めて感じました ・看護基礎教育から感情労働や自分を大切にすることを学ぶことは必要だと感じました 7. 評価 看護師は使命感が強く、我慢しなければならないと感情を抑える傾向がある。ストレスフルな医療現場やコロナ禍の柔軟な対応を求められる中で、共感疲労を生き延びるためには、レジリエンスの重要性と周囲との対話の大切さを、感情労働の第一人者である武井先生から学べた。 コロナ禍でコミュニケーションの場が減少した現場で、業務終了後の荷降ろし作業や雑談の効用などが必要であることが分かった。講義の中で「ケアするためにはケアされる必要がある」とあり、日常の中で取り入れられ職場環境が良くなることを期待する。 またアンケートの結果からも、約 94%以上が良かったと回答しており受講者のニーズに応えられたと評価する。		



看護師職能委員会Ⅰ 研修（講演会）実施報告

研修（講演会）テーマ	それぞれの立場から患者に寄り添う ACP を考える		
主 催	保健師職能委員会・看護師職能委員会Ⅰ・看護師職能委員会Ⅱ 合同開催		
講 師	西 智弘 氏（川崎市立井田病院 腫瘍内科 部長／一般社団法人プラスケア 代表理事）		
開 催 日 時	令和5年1月13日（金）13:30～16:30		
目 的	人生の理想的な最期の実現のため、ACP について学び各職能が自ら考える機会とする		
内 容	講演		
場 所	神奈川県総合医療会館 7 階講堂（Zoom 及び会場によるハイブリット方式）		
参 加 対 象	看護職	参 加 人 数	195 名（委員 26 名含む） （会員 177 名・非会員 18 名）
まとめ・評価	1. アンケート回収 128 枚 回収率 75.7% （委員以外参加者数 169 名） 2. 職種 1) 看護師：115 名 2) 助産師：3 名 3) 保健師：10 名 4) その他：0 名 3. 研修会を知ったきっかけ 1) 看護協会からの案内チラシ：69 名 2) 看護協会のホームページ：34 名 3) 上司からの情報：16 名 4) 友人・知人からの情報：4 名 5) その他：5 名 4. 満足度 1) 満足：87 名 2) まあ満足：34 名 3) 普通：7 名 4) やや不満足：0 名 5) 不満足：0 名 5. 新たな知識や情報 1) 得られた：91 名 2) まあ得られた：32 名 3) 普通：5 名 4) あまり得られない：0 名 5) 得られない：0 名 6. アンケート内容 ・日々の対話がいかに大切かを再認識させられた。ACP を意識した対話を心がけていきたい。 ・ACP について自分の立場から考える機会となった。 ・社会的死をできるだけ伸ばすように介入していきたいと思った。 7. 評価 ACP とは、患者のこれまでの人生を家族と一緒に振り返り、その価値観や死生観、考え方などを探りながら、終末期に関するケア全体の目標や具体的な治療・療養場所などについて、早い時期から話し合いをしていくプロセスである。今回の講義を通して、日々の対話を大切にしていくことが重要であり、会話の積み重ねが、早期から関与をすることにつながるのだということを改めて学ぶことができた。講義後の質疑・応答では、多くの具体的な意見交換がされ、参加者の関心の高さがうかがえた。 受講者アンケートでは、94%以上が満足・まあ満足と回答し、96%が新たな知識や情報を得られたと回答していた。これらのことから受講者のニーズに応えられたと評価する。		



令和4年度 活動報告

I 活動目標

- 1 看護師職能の活動を通して、公衆衛生の向上と県民の健康保持・増進に寄与する
- 2 病院看護師の役割の明確化と資質の向上を図ると共に働きやすい環境づくりを支援する

II 公益目的事業

1 活動内容

- 1) 医療・福祉における看護師の資質向上のための研修会等の企画・実施
- 2) 看護職の交流を通して情報交換し、看護職の活性化を図る

2 活動の実績

項 目	内 容	開催日	場 所	参加者数
定 例 会	1) 研修会の企画・実施・評価 2) 実態調査の計画・実施・まとめ	全 11 回 (1 月中止)	神奈川県 看護協会	委員 11 名
研 修 会	テーマ：「今だから感情と看護を考えよう」 講師：武井 麻子 (Office-Asako 代表、日本赤十字看護大学名誉教授) ◆オンライン形式で開催	R4. 10. 1 (土)	同上	93 名
	テーマ：「それぞれの立場から患者に寄り添う ACP を考える」 講師：西 智弘 (一般社団法人プラスケア代表理事、川崎市立井田病院・かわさき総合ケアセンター 腫瘍内科 部長) ◆ハイブリッド形式で開催	R5. 1. 13(金)	同上	195 名
そ の 他	実態調査 「日本看護協会が提案する『就業継続が可能な看護職の働き方 10 項目』への神奈川県内の病院における取り組みに関する実態調査」			神奈川県内 342 施設 回収率 61. 2%

III 会員に対する支援事業

1 活動内容

- 1) 職能集会・講演会で事業計画を説明し、看護師職能委員会 I の活動を周知する

2 活動の実績

項 目	内 容	開催日	場 所	参加者数
職能集会 講 演 会	令和3年度看護師職能委員会 I 活動報告 令和4年度看護師職能委員会 I 活動計画 講演会 テーマ：「幸せに働くコツ～幸福学の観点から～」 講師：前野 隆司 (慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授) ◆ハイブリッド形式で開催	R4. 7. 30 (土)	神奈川県看護協会	111 名